

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出		第1学年 第2・3学年(上) 第2・3学年(下)	音楽・017-72 音楽・017-83 音楽・017-84	中学音楽1 音楽のおくりもの 中学音楽2・3 上音楽のおくりもの 中学音楽2・3 下音楽のおくりもの
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 歌唱については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～斉唱から混声三部合唱までについて、曲想と形式の関わりを理解したり、曲想を味わいながら合わせて歌う技能を身に付けたりする活動 第2・3学年～斉唱から混声四部合唱までについて、歌詞の内容を味わい、曲の構成を理解したり、豊かなハーモニーで歌う技能を身に付けたりする活動 ○ 創作については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～言葉のリズムやまとまりを理解したり、言葉のつなげ方や重ね方、全体のまとまりを工夫して、音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 第2・3学年～音符のつなげ方によるリズムの違いを理解したり、言葉の反復や重ね方を生かして、まとまりのある音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 ○ 鑑賞については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、用いられる音階や曲の構成などの特徴を理解したり、日本とアジアの声による表現について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 第2・3学年～我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、曲の特徴と曲全体の関わりを理解したり、他の芸術と関係する音楽の役割や効果について考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～教科書冒頭で示された「学習の進め方」を基に、それぞれの曲の特徴についてまとめたり、音楽を形づくる要素の働きに注目して、気が付いたことや感じ取ったことを話し合ったりする活動 第2・3学年～教科書冒頭で示された「学習の進め方」を基に、テクスチャ（音の重なり方）の変化に注意して歌ったり、舞台芸術の表現から、それぞれの音楽の特徴をまとめ、共通点や相違点について紹介したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～曲の特徴についてまとめたり、曲の山場（クライマックス）の部分を確認し、その部分の特徴をまとめたりする活動 第2・3学年～ピアノ伴奏が変化する効果について、感じ取ったことをまとめたり、フレーズや形式を理解して、ブレスの取り方を工夫して歌ったりする活動				

内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第 1 学 年～「全体の構成を考えながら音楽をつくろう」において、言葉の自然なリズムや抑揚を聴き取り、反復や重ね方による全体の構成を考えながら創作できるようにするなど、系統的・発展的に学習できる工夫 第 2・3 学年～「曲想を感じ取り、曲の特徴を生かして合わせて歌おう」において、フレーズや速度の変化を生かし、合唱で表現するときの指揮の仕方について音楽の特徴と合わせて考えるなど、系統的・発展的に学習できる工夫 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 第 1 学 年～歌唱は 51 ページ、創作は 5 ページ、鑑賞は 20 ページ、その他は 16 ページであり、総ページ数は 92 ページで、前回とほぼ同様となっている。 第 2・3 学年 (上) ～歌唱は 44 ページ、創作は 4 ページ、鑑賞は 23 ページ、その他は 21 ページであり、総ページ数は 92 ページで、前回とほぼ同様となっている。 第 2・3 学年 (下) ～歌唱は 40 ページ、創作は 4 ページ、鑑賞は 17 ページ、その他は 31 ページであり、総ページ数は 92 ページで、前回とほぼ同様となっている。
使用上の配慮等	○ ユニークな活動を展開するピアニストから中学生に向けたメッセージや、人と社会とのつながりを生み出す取組を掲載するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ アイコンやマーク等で、学習の見通しや活動例を示したり、楽曲のよさや魅力についてまとめるコーナーを掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、カラーユニバーサルデザインに配慮したり（全学年）するとともに、1 人 1 台端末を活用した学習活動として、まなびリンク（二次元コード）を掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、歌唱や鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」「江差追分」「チュプカ ワ カムイラン」、本市や北海道に関する「時計台の鐘」「雪の降る街を」などが扱われるとともに、旭川市大雪クリスタルホール内にある作詞者直筆の「雪の降る街を」の詩碑、札幌市時計台の外観、札幌コンサートホール Kitara のパイプオルガンの写真が取り扱われている。また、北海道名物の「ジンギスカン」等の言葉を使った創作活動が取り扱われている。 ○ I C T の活用については、1 人 1 台端末を活用した学習活動として、自分の推す曲をプレゼンテーションする活動が設定されている。また、巻頭や要所に二次元コードを掲載し、歌詞の表す情景に合う映像や範唱の視聴、指揮の仕方、ワークシート等を掲載するなど、授業における参考資料として活用できるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、小中で共通に扱う音楽を形づくっている要素を手掛かりに、気付きや考えを「Active!」の欄に記述し、学習を深められるよう配慮がなされている。また、小学校の共通教材「ふるさと」を同声二部合唱、混声三部合唱、混声四部合唱と系統的に掲載し、小学校での歌唱の学びを生かして歌うことができるよう配慮がなされている。
本市生徒の	○ 音楽の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を生かして表現を工夫する力を育むことができるよう、曲の情景を感じ取りイメージを広げることのできる写真や映像、比較して学習を深めることのできる教材を多く設定している。また、「Active!」で、曲の特徴をまとめる活

学習の状況等	動や曲の山場を考えて演奏するなど、思いや意図をもつ過程を重視した配慮がなされている。 ○ 表したいイメージを膨らませながら、即興的に音を出したり音のつながり方を試したりしながら表現する力を育むことができるよう、「音のスケッチ」として創作の活動の手順を示し、つくったリズムや音楽を書き込むことができるワークシートが掲載されているとともに、言葉のつなげ方や重ね方、全体のまとまりを工夫して音楽をつくる活動が設定されるなどの工夫がなされている。 ○ 鑑賞において、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、自己のイメージや感情を伝え合うなど、互いの感じ方や考え方に共感することができるよう、「表現の仕方を調べてみよう」で複数の曲を比較しながらワークシートに聴き取ったことや感じたことを整理することができるよう工夫がなされている。また、「話し合おう」で、自分にとって聴きどころや自分なりの考えを紹介する活動を設定するなどの配慮がなされている。
その他	○「コンピュータと音楽」を掲載し、音楽に関する著作権やインターネット上の音楽利用について考える内容が扱われている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		27・教芸	第1学年 第2・3学年(上) 第2・3学年(下)	音楽・027-72 音楽・027-83 音楽・027-84	中学生の音楽1 中学生の音楽2・3上 中学生の音楽2・3下
取 扱 内 容	学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 ， 内 容 等	○ 歌唱については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～斉唱から混声三部合唱までについて、歌詞と曲の構成との関係を理解したり、音色や強弱を工夫して歌う技能を身に付けたりする活動 第2・3学年～斉唱から混声四部合唱までについて、声部の関わり合いを理解したり、曲想の変化やパートの重なりを生かして歌う技能を身に付けたりする活動 ○ 創作については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～和音の動きに合わせて音のつながり方を理解したり、表したい場面を選び、構成を工夫して音楽をつくる技能を身に付けたりする活動 第2・3学年～リズムの重なり方による特徴を理解したり、和音の動きに合わせてまとまりのある旋律をつくる技能を身に付けたりする活動 ○ 鑑賞については、目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～我が国や郷土の音楽及びアジア地域の諸民族の音楽等について、映像の中で音楽が果たす役割を理解したり、音楽の特徴と歌詞が表す情景や心情について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 第2・3学年～我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽等について、声による表現の特徴を理解したり、作曲者が記した標題や解説などから作品にこめられた思いについて考え、音楽のよさや美しさを味わったりする活動 ○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～目次の後に1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」を基に、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、自分たちの表現を工夫したりする活動 第2・3学年～目次の後に1年間の学びを俯瞰することができるページ「学びの地図」を基に、各教材に設定された音楽を形づくる要素を踏まえて学習したり、音色や旋律に着目して、伝統音楽を聞き比べて特徴をまとめたりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。 第1学年～聴き取ったことと感じ取ったことをまとめたり、演奏を聴いて確認したことをもとに気付いたことや考えたことをまとめたりする活動 第2・3学年～言葉のまとまりや抑揚を意識しながら、歌詞を音読したり、声の音色や速度、リズムの変化を感じ取り、表現を工夫して歌ったりする活動			
		○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～「リズムチャレンジ」において、リズムを選び、そのリズ			

内容の構成・排列、分量等	ムを繰り返したり，リズムを変化させたりして，リズムアンサンブルを創作できるようにするなど，系統的・発展的に学習できる工夫 第2・3学年～「伝統音楽の魅力を見付けよう」において，音楽を聴いて気付いたことをまとめ，地域に伝わる祭りや芸能に取り組む意義を考えるなど，系統的・発展的に学習できる工夫 ○ 内容の分量については，次のようになっている。 第1学年～歌唱は48ページ，創作は5ページ，鑑賞は25ページ，その他は20ページであり，総ページ数は98ページで，前回とほぼ同様となっている。 第2・3学年（上）～歌唱は44ページ，創作は，5ページ，鑑賞は21ページ，その他は28ページであり，総ページ数は98ページで，前回とほぼ同様となっている。 第2・3学年（下）～歌唱は，44ページ，創作は，4ページ，鑑賞は23ページ，その他は27ページであり，総ページ数は98ページで，前回とほぼ同様となっている。
使用上の配慮等	○ 各界で活躍する方の中学生に向けたメッセージや，様々な角度から音楽を捉え，より幅広い価値観をもつことができる「音楽ってなんだろう？」を掲載するなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ どのような曲なのか簡潔に示す楽曲の紹介文を示したり，「問いかけ」による考えたいポイントを掲載したりするなど，主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年），色覚特性への配慮をしたり（全学年）するとともに，1人1台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載する（全学年）など，使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については，歌唱や鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」「江差追分」，郷土の芸能として「アイヌ古式舞踊」が扱われるとともに，北海道のテレビ局で製作された番組のエンディングテーマ「1／6の夢旅人2002」が取り扱われている。また，「社会を映し出す音楽」として，北海道出身の伊福部 昭作曲の映画曲「ゴジラ」が紹介されている。 ○ ICTの活用については，1人1台端末を活用した学習活動として，興味のある音楽についてインターネットで詳しく調べる活動を設定するなどの工夫がなされている。また，巻頭や各曲に二次元コードを掲載し，歌唱教材のピアノ伴奏と合唱曲のパートごとの演奏音源，鑑賞曲の譜例の音源再生，画面上で旋律をつくり再生することができる創作ツールなど，様々なコンテンツを学習活動に活用できるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については，「My Melody」や「Let's Create!」で創作の手順を分かりやすく示しており，小学校における「音楽づくり」の学習内容を踏まえながら段階的に取り組めるよう工夫がなされている。また，小学校第6学年の共通教材「越天楽今様」と関連する内容として，第1学年に雅楽「平調 越天楽」を鑑賞曲として掲載し，小学校の学びを生かして学習することができるよう配慮がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 音楽の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を生かして表現を工夫する力を育むことができるよう，キャラクターの吹き出しで表現方法のアドバイスや思考のヒントとなるような内容が掲載され，曲にふさわしい表現ができるよう工夫がなされている。また，「深めよう！」のアイコンを設け，ペアやグループで歌い試したり，表現の工夫を聴き合ってアドバイスしたりする活動が設定され，考えを深め広げる過程を重視した工夫がなされている。

	○ 表したいイメージを膨らませながら,即興的に音を出したり音のつながり方を試したりしながら表現する力を育むことができるよう,創作過程の手順が丁寧に示されており,教科書と同じ体裁のデジタルコンテンツが用意され,紙面とウェブ画面のどちらも活用して創作活動に取り組めるよう工夫がなされているとともに,イメージをもとにつくった旋律や音楽を中間発表として聴き合う活動が設定されるなどの工夫がなされている。 ○ 鑑賞において,想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして,自己のイメージや感情を伝え合い,互いの感じ方や考え方に共感することができるよう,複数の曲の中から個々の興味・関心に応じたものを選択して聴くことができる活動の工夫がなされている。また,「学びのコンパス」において,聴き取ったことや感じ取ったことをまとめたり,友達と意見を交換したりする活動を設けるなどの配慮がなされている。
その他	○ 「ルールを守って音楽を楽しもう!」で音楽に関する著作権や著作隣接権について考える内容が扱われている。